

活水女子大学卒業式 祝辞

理事長・院長 湯口 隆司

卒業される皆さんおめでとうございます。また保護者の方々にもご列席を賜り心から感謝申し上げます。皆さんはこれまでの普通の大学生活を営むことが制限された生活を過ごされました。貴重な一日、一年が、マスクを身に付け、外食も激減し、県外への旅行も当初は制限されたことも思い出します。コロナショックは経済だけでなくほとんどすべての人々の生活や成長にも影響を与えました。

卒業生の皆さんの約 20 数年間のなかにはコロナによる数年間の突発的な環境があったのですが、イエスの有名なたとえ話の一つ「タラントンのたとえ」(「マタイによる福音書」25 章 14 節から) は同じ 20 年近くの出来事の最初と最後が舞台です。主人が旅行に出かける際に、3 人の僕(しもべ) にそれぞれの力に応じて 5 タラントン、2 タラントン、もう一人には 1 タラントンを預けて旅に出たのです。主人はこの財産を預けたのち 20 数年後に戻りました。5、及び 2 タラントンを預けられた僕はその間に商売をして、それぞれ 10 タラント、4 タラントンと元金を 2 倍にまで伸ばしました。一方 1 タラントンを預けられた僕は主人を恐れて地面にその貨幣をそのまま埋めておいたのです。

ご存知のようにタラントンはギリシャ語で、重さをはかる単位でした。それがイエスの時代に貨幣の単位となり「タレント」の語源となりました。1 デナリオンは当時の 1 日分の労働賃金です。その 6,000 デナリオンが 1 タラントンです。週給の換算方法にも寄りますが、1 タラントンは約 20 年間の給与の総額です。

さて旅からもどった主人は 1 タラントンを地面に埋めた僕に「怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに」と叱りました。

タラントンのたとえは決して投資信託や債券、新 NISA のようなお金を儲ける話ではありません。僕は主人が恐ろしい人だから、もしも金額を減らしたら大変なことになると考え地面に貨幣を埋めたのです。その僕は主人に怠け者、悪い僕だと非難されました。1 タラントン、つまり 20 年間分の労働の対価である貨幣を地面に埋めて、主人が帰るまで一体何をこの僕はしていたのかと私も疑います。

卒業する皆さんにもその前の世代と同様に、卒業は新しい世界に、未来に向かって一步を踏み出す時です。未来のことを誰も知ることはできません。コロナ禍、ウクライナ戦争も誰が予想したでしょうか。今年は米国の大統領選挙があり、世界中が身構えています。将来は分からない分、恐ろしさが確かにあります。この 3 人の僕もものすごい大金を託されて同じ恐怖の心境にあったでしょう。

元金を 2 倍にした僕と元金を地面に寝かせておいた僕の違いは何でしょうか。主人に対する信頼ではなかったかと私は思います。

人生を神に信頼し、前を向いて未知の時間を生きる姿勢をこのたとえは言っています。貨幣も信頼から成り立ちます。また貨幣はたくさんのもので交換できます。しかしながら幸せや自己肯定感、充実感と喜び、そして感謝の心は内から湧き上がるもので、貨幣で買うことはできません。

2018 年から日本航空と活水女子大学は連携協定を結んでいます。この日本航空の新社長に活水女子短大卒業生の鳥取三津子氏が内定しました。日本のトップ企業の一つに、短大卒の CA 出身者が決まったのです。このニュースは活水関係者が喜び驚く以上に経済界を驚かせました。変わらない日本社会、停滞する大企業のイメージを突き崩した出来事でした。日本企業のガバナンスと公平性からくる社会信用度を世界に示す大ニュースでした。停滞する日本の突破口の一つを卒業生が開いたのです。そして新執行役員 30 数人の中には鳥取さんはじめ活水女子短期大学および活水女子大学の卒業生が 3 人も入ったことはとても誇らしいことです。

タラントンを 2 倍にするには 20 年かかります。これからの 20 年間に大学までに学んだ知識や経験は古いものになっているかもしれません。しかし神さまに信頼をおき歩むこれからの 20 年は皆さんのタラントンを 2 倍、それ以上に増やし、真の朽ちない財産となるはずです。これからの人生の歩みを信頼し恐れを打破し、豊かで人生にチャレンジする喜びといのちへの感謝につながる朽ちない財産となります。皆さんの先輩たちがそれを十分に示しています。

卒業の一步は当たな光が差し込むスタートです。神さまが共にあり、導き守られるようにと祈ります。